

1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ『色』	園名	ヒューマンアカデミー西調布保育園		
野菜を使っのアート 野菜の色の違いを楽しむ	クラス	1歳児クラス（うさぎ）	人数	14名

<テーマ設定理由>

当園では、子どもたちの感性を育む活動や、豊かな体験を積み重ねることを大切にしている。色の名前に興味を持ち、製作活動を行ううちに単色の色の混ざりあいや重なりあいに興味が深まりました。そこで自然物の中にある複雑な色のちがいや様々な素材に色を取り入れることで微妙な色の変化に関心をふかめるため。

- ・五感を刺激して知的好奇心を刺激し、さまざまな素材に触れることで指先の発達を促したり、触ったり匂いを嗅いでみることで想像力や思考力を育む
- ・集中して一つの素材に触れたり、遊びを工夫したりする経験を通して、意欲や集中力を高める

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】2025年8月～2026年3月
 2025年10月7日 保育補助（茄子の収穫）
 2025年10月14日 保育補助（バック作り）
 2025年10月22日 アート活動
 探究活動を深めるために、アートの専門家と保育活動及びアート活動を実施

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【準備物】
 ・野菜（茄子、ピーマン、ミニトマト、アボガド、カボチャ、にんじん、大葉、パプリカ、オクラ、切り干し大根、玉ねぎの皮、にんじんの皮、ドライトマトの皮、ドライにんじんの皮）
 ・画用紙（太い枠でもみじの形を描いておく）・糊・糊用小皿・ウエットティッシュ・手拭き用タオル・机用シート
 【環境設定】
 ・興味を持った野菜を手にとって感触を確かめていけるように材料を準備しておく

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・準備した野菜を子どもたち前に置きみせる
- ・野菜の実や皮、種、汁など見る、触る、匂いを嗅ぐ、折る、潰すなどから五感で感じる
- ・色々な色の画用紙の中から好きな色を選ぶ
- ・乾燥させた皮などを使い、選んだ画用紙に糊をつけて貼ってみる

（配慮事項）

- ・保育士の役割分担をきめ、児の気づきや言葉を拾っていく
- ・一人一人の興味や関心に共感し、手が汚れる、触るのをためらう児には保育者も一緒に行うことで参加できるように促していく

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

- ・畑で収穫した経験から最初の導入は茄子。一人一人が茄子を手にとると、匂いを嗅いでみたり、講師の真似をして折ってみようとする姿が見られた。子どもたちの力ではなかなか折れず「かたいね」と固さを確認し、折ることができると「バキッて音がしたね」と音にも興味を持つ。自分たちの力で折れたことにも喜びを感じていた。また皮は紫色だが、折ってみると「白いね」と色の違いに気づいていた。
- ・カボチャの種を一粒ずつ取り出すことに夢になっていた
- ・アボガドを半分にすることで種を取り出し宝物のように扱ったり、ハンドクリームのように手に塗ってみたり、アボガドに野菜を刺して柔らかさを実感していた
- ・お盆の上に野菜を準備していたことで、自分から様々な野菜に手を伸ばしお皿の上に置いてサラダを作っていた
- ・「トマトはトントントン」「カボチャはチャチャチャ」と歌を歌いながらそれぞれの野菜を手にとって匂いを嗅いでみたり、トマトを潰すと汁が出ること、コロコロ転ががして野菜に親しんでいた



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

- ・普段の食育とは違い、野菜の種類や数も多く準備したことで、子どもたちが自由に触ったり、指先を使ってちぎったり、自由な活動として自分たちがやりたいことに夢になっていた。一人一人の興味の違いや気づき、色、形、固さなど五感で感じる事ができた。
- ・言葉で自分の思いを表現することは難しい年齢ではあるが、活動を始めた時から目を輝かせながら野菜に触れ、親しみのある野菜を準備したことに嫌がることなく、集中して取り組む姿が見られた。

1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ『色』 「光」は何色？（色の混ざりもみてみよう）	園名	ヒューマンアカデミー西調布保育園		
	クラス	2・3歳クラス （ぱんだ・ぞう）	人数	17名

<テーマ設定理由>

【今回の問いの理由】

- ・ 絵の具を使った遊びの中で、色の混ざりに興味をもっていた。
- ・ スポンジでスタンプをした経験から、素材への興味が深まった。

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】 2025年8月～2026年3月

2025年8月26日 保育補助(誕生日会、水遊び)

2025年9月1日 保育補助(泥遊び)

2025年9月2日 保育補助(絵の具遊び)

2025年9月7日 アート活動

※探究活動を深めるために、アートの専門家と保育活動及びアート活動を実施

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ 寒色の画用紙（二つ折にする）、オレンジ、黄色、白の絵の具、スポンジ、四角と円柱の積み木、雑巾、テーブルに敷くシート、ランタン

- ・ 保育士の役割分担を明確にして、児の気づきなど、言葉を拾っていく。
- ・ 準備など、講師と相談しながら行い、無理のない活動ができるようにして行く。

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・ 2グループに分かれて活動。
- ・ 空に浮かぶ太陽や月をイメージして製作に取り組む。
- ・ 導入として、ランタンを用いて「そらに浮かぶ光るものはなにか？」という問いかけを行う。
- ・ 黄色、オレンジ、白の絵の具を用意し、スポンジと積み木に絵の具をつけて光を表現。
- ・ 台紙は藍色、水色、青の色を用意し、好きな色を児が選択。

<活動中のこどもの姿・声、こども同士や保育者との関わり>

導入では、紺、青、水色の画用紙を夜空や海に見立て、画用紙にランタンで光をあてて、太陽や月といったひかりを連想するよう促してみた

→保：「空にある光るものってなに？」

→子：「くも」「かみなり」「はなび」「おひさま」「おつきさま」「ほし」

画用紙は、「夜がいい！」と言って暗い色の画用紙を選ぶなど、自分で使いたい色を選んでスタート。

スポンジや積み木に絵の具をつけ、太陽や月をイメージしてスタンプをする。ポンポンと押ししたり、伸ばしたり、積み木を転がしたりと好きなやり方で楽しむ。

手を動かすたびに色が変わっていく様子を見ながら

「きらきらしてる、きれい、混ざった！」

「お月さまが雲に隠れちゃった」「ロケットみたい」

「これは太陽」といった具体物に見立てる言葉が聞かれる。

また、色が滲み広がる様子を指や手で触れながら『あつい』など温度感覚にまで想像を広げている姿がみられた。

活動を進めていくと、絵の具の粘着性に気づいて、絵の具のついた積み木を画用紙に立ててくっつけてみたり、色の混ざりを肌で楽しみながらダイナミックに描く様子もあった。

完成した絵は、デカルコマニーとしても楽しめるよう、画用紙を半分に折り、色を転写させるように貼り合わせる。

そして、ゆっくり画用紙を開くと、それまでとは異なる色の混じりや、画用紙の両面に広がる色合いに「みてみて！」と感嘆の声をあげ、閉じては広げることを繰り返し楽しんでいった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

寒色系の画用紙に色を塗るという活動は行ったことがなかったが、アーティストの色の選択により暗い色の画用紙にも映え「光らしさ」感じることができた。絵の具が交じり合っても暗くなることも濁ることもなかったため、色の交わりや、絵の具の感触を存分に味わうことができた。

その後のデカルコマニーの画用紙を開く感覚や手で絵の具を塗る感触も楽しんでいった。また、積み木やスポンジを使ったことにより、形にも興味を持つ姿も見られたので、形の活動も考えていきたい。

1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ『色』 色の混ざりから生まれる形を探そう！	園名	ヒューマンアカデミー西調布保育園		
	クラス	2・3歳クラス (ぱんだ・ぞう)	人数	17名

<テーマ設定理由>

事前活動で子どもたちが手を使って「粘土をこねる」「色の混ざりを感じる」「そこからできたなにかに名前を与える」ことに興味を深めているのが垣間見えた。そこで、より多い色の混ざるパターンを与えることでできる形から、想像できるものを増やし、園児自身が想像力の気づきを得ると考えたため。

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】2025年8月～2026年3月

- ・1月20日 紙粘土で遊ぶ。白い紙粘土をこねて自由に表現する。
- ・1月17日 紙粘土に色を付け、フレーム作りをする。

※探究活動を深めるために、アートの専門家と保育活動及びアート活動を実施

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【準備物】・紙粘土6袋・絵の具（赤か緑を選びその後黄色を選ぶ）・絵の具用の小皿、人数分

- ・濡れたタオル・霧吹き・手拭き

【事前準備】

- ・2グループに分けて行う。
- ・紙粘土は3個×人数分を用意しておく。（フレーム用の粘土1と混ぜる用の粘土2）
- ・小皿に赤、緑、黄の絵の具を出しておく。

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・事前に分けておいた粘土を1つ配り、こねてフレームを作る。
- ・赤か緑の絵の具を選び、2つ目の粘土と混ぜ合わせる。
- ・3つ目の粘土と黄色の絵の具を混ぜ合わせる。
- ・2色の粘土を混ぜたりこねたりしながら、フレームに乗せる装飾を作っていく。
- ・完成した装飾をフレームに乗せて完成。

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

①紙粘土を細長くする。

→バナナ、へび、電車。じゃがいもと見立てながらこねていた。
→講師が細長くしてみせたことで、真似してこねてみようとしていた。
→多くの児が細長くしているなかで、くるくるまいていく児がいた。かたつむりと言っていた。
→フレーム作りでは細切りに切ったものを円の形になるように細かくつなぎ合わせている児がいた。



②粘土に絵の具を混ぜる。

→混ぜてできた色（ピンク・みどり）を発見した。
→色から連想されるものを言葉にしていた。（赤は消防車、おもなど）



③フレームを飾る

→「トッピング」と表現していた。
→隙間なく小さな丸をのせたり、規則的に隙間を開けて丸を並べたりしていた。
→りぼん、ハートなど、具体的なイメージを形にしてかざりたいという児がいた。
→完成したものを見て、ケーキ、プロッコリー等と見立てていた
→家族をイメージしながら、小さい丸は妹、大きい丸は父親、中くらは母親などと連想していた。
→完成すると、周りにいる保育者全員に見せにきている児がいた。保育者はそれぞれ完成したことや、頑張ったところなどを一緒に喜んだ。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

・普段から粘土をつかって遊ぶことはあるが、粘土だけに集中して遊ぶことは少なかった。今回紙粘土という素材とじっくり触れ合うことができ、感触遊びが好きな子どもたちも満足感を感じていたように思う。
・1年のテーマとしてきた色の要素も入っていたことで、混ぜたた何色になるのか、興味を持って考えたり発言したりしていた。混ぜてできる色は何色か、経験として実感できたと思う。・色から形に興味がある時期でもあり、形が出来上がっていくことにもよく関心を示していた。また、身近にあるものを形から見立てていて、想像力も刺激されていると感じた。
・装飾は児それぞれに個性があり、自分のイメージしたものを作りあげようとする姿が多かった。これまでは何となく丸をつくるなどしていたが、イメージを形にする力がついてきたのだと感じた。・完成したものを保育者に見せにきたことで、自分でできたという達成感を味わっていた。また、各々がイメージしたものを制作物として残し飾ったことで保護者との会話の題材となり活動の思いを言葉で表現する姿が見ることができた。



2026年2月保護者会にて活動共有

1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ『色』 あれとこれを混ぜたらどんな音になるかな	園名	ヒューマンアカデミー西調布保育園		
	クラス	1歳クラス(うさぎ)	人数	14名

<テーマ設定理由>

・ペットボトルに石や枝な土を入れて振り「どんな音がするのか」「入れる量や素材によってどう違いがあるのか」という興味を深める。
 ・多様な素材や色など組み合わせのパターンを用意することで生まれる音の違いや響き・色の変化を広げ、そこから素材の特性に気づき発見や探究の面白さに出会う。

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】2025年8月～2026年3月
 2026年2月3日「節分会」
 2026年2月10日「ペットボトルに石を入れることを楽しみ、振って音を確認する」
 2026年2月17日「ペットボトルに小石を入れ振った時の音と、水を入れて振った時の音の違いを確認する。その後、絵の具を染み込ませたコットン球(黄色+赤or青)を入れて振ることによって色が変化、混色を楽しむ」

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【準備物】・ペットボトル(人数分)形が違う物×2 ・石(3種類の石容器にいれ3テーブル分にかけておく) ・コットン球(黄色、赤、青の絵の具をスポイトを使って色を染み込ませ各色15個を容器に入れておく) ・水(1.5ℓ×3本) ・石を入れる容器×人数分 ・お手拭き×人数分 ・ボウル×2 ・予備として絵の具を溶いたカップ(赤、黄色、青) ・スポイト×3本
 【環境設定】・うさぎA,Bクラスに分かれて行う予定だったが、欠席者がいたため、2テーブルに分かれて一緒に活動する

4. 探究活動の実践

<活動内容>

2026年2月10日
 「ペットボトルに石を入れることを楽しみ、振って音を確認する」
 2026年2月17日
 「ペットボトルに小石を入れ振った時の音と、水を入れて振った時の音の違いを確認する。その後、絵の具を染み込ませたコットン球(黄色+赤or青)を入れて振ることによって色が変化、混色を楽しむ」



活動のイメージがもてるように事前に手順を伝える

<活動中のこどもの姿・声、こども同士や保育者との関わり>

・2週続けての活動として、1週目はペットボトルに自然物(自分たちで拾った小石、小枝)を入れて音を確認する活動を行った。
 ・2週目はペットボトルに小石を入れてから、水を入れ音を確認した後、絵の具を染み込ませたコットン球(黄色+赤or青)を入れて色の混色を楽しむ。

・コットン球を入れ振ってみると発色し「黄色になったよ」と驚いたり、他児と色を比べ「緑にならない」と選択した色の違いで変化する色の違いがあることに気付いていた。また緑色に変化した様子から「抹茶みたい」と想像力を膨らませ満足感を味わうことができた。

・水を2段階に分けて入れることで「ガシャガシャ」「カシャカシャ」と声に出して音の変化を楽しむ。

・ジェルポリマーは初めての素材だったが指先で掴む難しさを感じながらも感触を楽しみながらペットボトルに入れていた。

・水を入れたときに透明なジェルポリマーが水と区別がつかなくなり「消えちゃったね」と振ったりしてペットボトルの中を観察する。色のないものへの関心も同時に味わうことができた。

・最初のコットン球で黄色に変化したことをピンク系の色が好きな子が納得がいかない様子もあったが2回目の実験で赤紫色に変化すると「ぶどうの色」と喜ぶ。

・同じ黄色でも色味が違うことに気づき「黄色、違うね」と、並べて比べていた。

・無限にある色の違いを楽しむ様子や不思議そうに見つめるまなざしが各々の気持ちを表現しているようであった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

・色を混ぜるときは薄い色に濃い色を混ぜるとコントラストが分かりやすいということを知った。赤が強く出やすい為、今後の製作で色を使うときには意識して行うようにする。

・色々な素材を自分たちで選んだことや、何度も出し入れして遊んだり「こうしてみたい」という思いのままに行動ができるように、色々なことを想定して準備物を用意した為、探究心や達成感を満たせる活動ができた。

・色以外にも水の量に変化を持たせることで、音の違いまでも感じ取ることができた。

・準備物を十分に用意することで、こどもたちの欲求にこたえることができた。

・レンタルしたモバイルディスプレイで手順を示したことが、子どもたちの意欲や期待につながった様子であったため、購入をすすめていきたい。